

同工房の工藤理沙代表から塗りを重ねた椀の違いを教わる

きした。アップ

まちのニュース

皆さんからの情報をお寄せください。 企画財政課広報広聴係(☎・内線1203)

伝統の技を未来へ継承

安比塗漆器工房で漆塗りを体験

安代小4年生の児童10人が12月9日、安比塗漆器工房で社会科見学体験学習を行い、地域の伝統的工芸品である漆器の制作過程を学びました。

児童は漆の説明を受け、制作現場を見学。昨年6月に日本遺産に認定された"奥南部"漆物語に関わる伝統技術に触れました。その後は木製のミニスプーンに赤、青、黄の3色の漆を塗り、思い思いに作品を仕上げました。関来海さんは「地元の漆文化を誇りに感じた。もっと漆について知りたい」と関心を高めました。



筆やスポンジを使い世界に一つだけのマイスプーンを作成



ホワイトとブラウンの2種類を手に抱負を誓う船橋理事長

唯一無二のうまいキノコ

八幡平マッシュルームが地域団体商標に登録

馬厩肥を活用して栽培される「八幡平マッシュルーム」が特許庁の地域団体商標登録を受け、生産する企業組合八幡平地熱活用プロジェクトの船橋慶延理事長が11月17日、報告に市役所を表敬訪問しました。

船橋理事長は「安定供給できるように規模拡大や人 材育成を図り、馬とマッシュルームの双方を八幡平の 文化として根付かせていきたい」と力を込めました。

同商標はブランドの保護のほか地域経済活性化支援 を目的に導入され、県内では7件目の登録になります。



盛岡信用金庫と高齢者等見守りネットワーク事業協定を結ぶ。同事業協定締結は5社目(12月23月、市役所)



法務大臣から人権擁護委員に委嘱 された遠藤友子さん。再任4期目 (1月1日、市役所)



8月15日から1月11日に延期していた令和2年度成人式はコロナの感染 状況を考慮し、初の中止に(12月1日)



同会として初の記念誌[70年の年輪]を手にする大森会長

荒屋婦人会(大森貞子会長、会員40人)は12月13日、70 周年記念誌発刊を祝う会を荒屋コミュニティセンター で開き、出席者約60人に記念誌をお披露目しました。

昭和23年のアイオン台風被害者への義援金募集に始 まり、時代に応じて行われてきたさまざまな活動を紹 介。荒屋地区の歴史を見ることができる資料にもなっ ています。大森会長は「これからも地域の人たちが安ら げる郷土であるために、世代を超えて活動を続けてい くことが必要 と力を込めました。

地域と学校の活性ツール

コミュニティ・スクール制度を学ぶ研修会

コミュニティ・スクール推進協議会の研修会は12 月1日、市役所多目的ホール棟で開かれ、学校長な どで構成する同協議会委員など32人が制度の動向や 今後の方向性について理解を深めました。

市内小中学校の取り組みの現状や課題を共有し、 組織の在り方や教育振興運動との関係について意見 を交換。児童・生徒が地元への理解と関心を深め、 愛着を持って育つことができるよう、学校と地域が 一体となって取り組むことの重要性を確認しました。



今年度から市内の全小中学校が導入している制度です



コロナ禍で頑張る人たちをFIGHTの文字で応援

冬の夜空に色彩きらめく

平舘青商会と平舘高がイルミネーション点灯

平舘青商会と平舘高美術部は12月10日、平舘コミュ ニティセンター敷地内に設置したイルミネーション をライトアップし、夜空を華やかに彩りました。

ドラゴンアイの化身の竜をモチーフとしたデザイ ンは校内コンテストで選出。同会員と1、2年の美 術部員は地元有志の協力を得て、LED電球など約 1万5千個を1カ月かけて装飾しました。

松浦彼方君(1年)は「見た人が明るく元気な気持ち になってくれたらうれしい」と笑みをこぼしました。

魅力と一緒に心届ける

ふるさと納税返礼品の梱包作業

市ふるさと納税返礼品の梱包作業は12月、年末の 駆け込み寄付を受け、急ピッチで行われました。

3日は(特非) そよかぜの家に通う利用者3人が作 業を担当し、丁寧な手つきで段ボールを組み立て、 緩衝材で保護して商品を封入。菅原隆志さんは「受け 取る人が喜ぶように、見栄え良くきれいな梱包を心 掛けています」と充実感をにじませました。

令和2年中の市への寄付金は11月30日現在、4,019 万9千円(2.633件)となっています。



市内3カ所の就労継続支援B型事業所が作業を実施



宿泊施設の新しい利用形態に理解を深める参加者

ネットと自然で新風呼ぶ

市観光協議会がワーケーション部会を開催

市観光協議会は12月3日、第3回ワーケーション部 会を市役所で開き、安比ロッキーインの大滝克美代表 が11月に行ったモニターツアーの報告をしました。

ワーケーションとはリモートワークを活用し、働き ながら休暇をとる過ごし方。都市を離れ豊かな自然の 中で仕事をすることで、創造性や生産性が高まります。

大滝さんは「自然を体感してもらうのはもちろん、 人とのつながりを大切にし、リピーターからいずれは 移住定住につなげたい」と今後に期待を寄せました。

岩手は輝く食材の宝箱

食育標語コンクールで西根中生徒3人が受賞

令和2年度県食育標語コンクール(県食育推進 ネットワーク会議主催)で、西根中の生徒3人の作品 が最優秀賞と優秀賞に輝きました。

テーマは「私の好きな岩手の食べ物」。 応募総数 1,227件から田村青葉さん(2年)の[海の幸 岩手の 野菜 宝箱」が最優秀賞を、工藤菜々美さん(1年)、阿 部姫良梨さん(2年)の作品が優秀賞を受賞しました。

田村さんは「美味しい岩手の食べ物をたくさんの 人たちに知ってほしい」と期待を込めました。



賞状を手にする(左から)工藤さん、田村さん、阿部さん

すなっぷギャラリー



平成10年の開館以来、5万人目の 記念来館者は工藤玉惠さん=間羽 松=(11月22日、市博物館)



日本郵便㈱と災害対応、高齢者や 子どもの見守りなど連携して取り 組む協定を結ぶ(12月16日、市役所)



黒澤洋史社長(右)から市内全児童 分の安比高原スキー場リフト券を 教育長に贈呈(11月26日、市役所)



地域住民が世代を超えスポーツに親 しむ『総合型地域スポーツクラブ』のセミナーを初開催(11月26日、市役所)



1月30、31日に開かれる東日本バ イアスロン選手権大会の支援協定 書を締結(12月15日、岩手駐屯地)